

## 秋季大会 2021 ご報告

日 時：2021年10月2日（土）13：00～16：30

開催形態：Zoomによるオンライン開催

PROGRAM：13：00～14：00 基調講演

「ケーキの切れない非行少年たちと頑張れない子どもたち」

講師：宮口 幸治氏／立命館大学 産業社会学部・大学院人間科学研究科教授

14：10～15：40 シンポジウム

「司法・矯正の実践から考える学校教育と多職種連携の未来」

シンポジスト：鈴木 育美氏／北海少年院紫明女子学院

栗田 芙友香氏／静岡県弁護士会、はままつ共同法律事務所

コーディネーター：伊田 勝憲氏／立命館大学大学院教職研究科教授

15：50～16：10 シンポジストとの懇談会①

16：10～16：30 シンポジストとの懇談会②

2021年10月2日（土）に、2021年度立命館学校教育研究会秋季大会をオンラインで開催いたしました。今年度の秋季大会テーマは、「ケーキが切れない少年はなぜ非行に走るのか？ー学校教育における多職種連携のあり方を探るー」とし、校友教員の方をはじめとして、立命館大学の学生や大学院生、教育委員会関係者など、幅広い職種・年代の方々が400名近くご参加くださいました。

## 基調講演

多くのマスメディアに取り上げられ、ベストセラーとなった「ケーキの切れない非行少年たち」の著者である立命館大学産業社会学部・大学院人間科学研究科教授の宮口幸治氏より、「ケーキの切れない非行少年たちと頑張れない子どもたち」というテーマでご講演いただきました。

講演では、境界知能とされる子どもたちへの支援の

重要性とその方法について、宮口氏が開発されたコグトレプログラムの紹介も交えながらお話いただきました。

参加者からは「今後の教育活動に生かせる貴重なお話ばかりだった」「自分にできることを改めて考える良い機会となった」「教育現場で勤務する中で、子どもたちとの関わりに新しい視点を学ぶことができた」と感想が寄せられ、新しい気づきをいただいた貴重な講演となりました。

## シンポジウム

基調講演の内容をうけて、大会後半は、「司法・矯正の実践から考える学校教育と多職種連携の未来」と題し、シンポジウムを開催しました。司法・矯正の第一線で活躍されている北海少年院紫明女子学院の鈴木育美氏、はままつ共同法律事務所の栗田芙友香氏より、法務教官・弁護士としての実践を通して見えてくる課題と多職種連携の可能性について話題提

供があり、お互いの立場や専門性を生かしながら、多職種連携を深めていく必要性や支援者自身が孤立せず励まし合っていける関係性を築いていくことの大切さについて述べられました。

参加者からは「それぞれの立場で共通認識を持ち、連携していくことの大切さを学ぶことができた」「多職種と連携して本人も家族もサポートしていける体制を整えていくことが大事だと改めて感じた」「もっと子どものために動かなければならないと気付かされた」といった感想をいただき、実りあるシンポジウムとなりました。

立命館学校教育学研究会秋季大会2021

なぜ非行に走るのか?

学校教育における多職種連携のあり方を探る

Zoomによるオンライン開催

PC・スマホ・タブレットなどから参加  
自宅からでもどこからでも参加  
チャット機能による講師への質問  
ブレイクアутルーム機能による  
グループ別ディスカッション

宮口幸治氏著書  
「ケーネの切れない  
非行少年たち」

立命館大学  
ケーネの切れない  
非行少年たち

どなたでもご参加いただけます!

参加無料  
要申込み

## シンポジストとの懇談会

基調講演とシンポジウム終了後、2グループに分かれてお二人のシンポジストとの懇談会を各20分行いました。小グループで活発な質疑応答や意見交換がなされ、大変有意義な時間となりました。

参加者からも「多様な立場の方と議論できて大変有意義だった」「質問された方の視点からも学ぶことが多くあった」「様々な方の意見が聞けて、自分の中での疑問点なども解決することができた」と感想をいただきました。シンポジストを交えた40分の懇談会はあっという間に過ぎ、もう少し時間がほしかったというご意見もいただきました。次回に向けて検討していきたいと考えています。

以上